

ae 社会福祉
法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより

2002年(平成14年)3月25日

第35号

発行 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより編集委員会

〒561-0881 豊中市中桜塚 2-28-7 TEL(6848)1000

URL: <http://www3.ocn.ne.jp/~tcpvc>

E-mail: tcpvc@gold.ocn.ne.jp

ボランティアグループあれこれ 災害支援ネットワーク 編

豊中市社会福祉協議会では、平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の教訓を生かし、災害発生時における市民の協力体制を整備し、連携していくために、ボランティアグループ、各種団体、企業が協力して、平成8年6月に「市社協災害支援ネットワーク」を結成しました。



救急救助活動(泉丘校区福祉委員会)

「災害支援ネットワーク」では、①緊急時に備えた登録・活動システム、②核となるボランティアの確保、③災害時のボランティア活動マニュアル、④震災の教訓を風化させない啓発活動を柱に現在34団体が加盟して活動をしています。



炊き出し(中豊島福祉推進協議会)

実際の活動としては、毎年9月に行政機関と連携した防災や救急訓練を行っています。また1月17日前後の日曜日には大規模災害を想定し、市社協と校区福祉委員会が連携し、災害支援ネットワーク加盟団体の協力のもと、ともすれば忘れがちな災害への備えと訓練・研修会を行っています。今年は1月20日に「あの瞬間(とき)を忘れない」をテーマに災害支援訓練を開催しました。

1月20日開催
あの瞬間(とき)を忘れない
災害支援研修会

平常の中での危機管理意識を保つにはこのような研修会の必要性を感じます。(30代男性)

日頃の備えを大切にボランティアのこと、人とのつながり、助け合いの必要性を再確認しました。(50代女性)

参加者の感想

震災を経験した者にとって友人や知人を急に亡くした思い出は辛いのですが、忘れてはならないことと思います。(70代女性)



リレートーク

テーマ「手と手をつないでボランティア ～これからの豊中の市民活動～」



第9回豊中ボランティアフェスティバルの中でも注目を集めたのは「リレートーク」でした。

「今世紀はボランティアの世紀である」という玉置先生の基調講演に始まり、さらに各パネラーが各方面での地道なボランティア体験を通しての苦労話や反省点を述べました。ボランティア同士だから理解し合えるお話もあり、価値高い意見が多くその一語一語に聴衆はうなづいていました。

貴重なリレートークであり、今後に生かしたいと思います。(アクセス M. Y.)

右から

- ・コーディネーター：玉置 好徳先生（梅花女子大学講師）
- ・パネラーの皆さん
松井淳太郎氏

（企業・団体ボランティアネットワークとよなか）

細谷正純氏（市社協登録ボランティアグループ「みちしるべ」）

葛西美紗氏

（特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか）

稲谷弘子氏（西丘校区社会福祉協議会）

山口貴子氏（市役所職員：服部南保育所）

第9回 豊中 ボランティア

2月17日(日)、豊中市民会館で開催さ
子ども遊びコーナー、リレートーク、福祉
企画が用意され、子どもから大人まで

福祉体験作文

「体験の中で感じたこと学んだこと」をテーマに市内
の小・中・高校の児童・生徒を対象に作文を募集し、7名
の方にボランティアフェスティバルで発表していただきました。

「西町バリアフリーへの道」

市立西丘小学校 六年 山口翔平

ぼくは福祉体験をして、さばわからないし、たとえ
みて、いままで便利だと足のけがなどで車いすの生
思っていたこの町の見方が活を強いられても、なおれ
かなり変わりました。なばわすれてしまうかもしれ
ぜなら、この町には車いすません。なので、車いすの
すに乗っている人にとつて人の立場に立つてみた時の
不便な段差や坂がたくさ事をだれもが心に深く刻
んあるし、目が見えないむ事が出来た時、その時
人の頼みの綱である点字が、「西町バリアフリー」の
ブロックが横断歩道の片完成の時だと思えます。
方にしかなかったりする（その他発表していただいた方
からです。

今回の福祉体験で、ぼくはこの町を誰もが住み
やすい町に変える事はでき
ないと思います。なぜ
なら、道をせまくしたり
点字ブロックをかくすよ
うな自転車の止め方をす
る人がいたら、役所がど
んなに道を広くしたり、
点字ブロックをふやして
も、全く意味が無いから
です。

でもぼくも、この体験
をするまでは気付かなか
つたし、一回車いすに乗っ
てみないとこういう不便

「デイケアセンターへいった」
小曾根小学校三年 加舎侑花
「ボランティアセンターに
行った」
南桜塚小学校四年 曾我部夏実
「お年よりの方の立場になって」
寺内小学校四年 川元一輝
「ボランティアを通して」
第二中学校一年 高田怜奈
「耳の不自由な人のことを
考えよう」
第四中学校一年 阪井美帆
「おばあさん、おじいさんから
教えてもらったこと」
第十四中学校一年 堀江知世

ファミリーボランティア体験コーナー

参加者
120名!!



手づくり特製アイマスク(「小さな手」作)
で「ボランちゃん」もアイマスク体験!!

手話、対面朗読、インスタントシニア、点字、アイマスク、ホームページ作成、車椅子、リフト付自動車試乗体験の8つの体験ポイントをスタンプラリーで回り、5つのスタンプが集まったら景品をプレゼント! というファミリーボランティア体験コーナーは大盛会。やる気満々。熱気ムンムン。どのコーナーも順番待ちの列ができスタッフは大わらわ。

インスタントシニア体験コーナーでは、昨年大阪ガスより体験装具の寄贈を受けたのが縁で、20名の社員が体験、応援参加。市民と企業とボランティアがひとつになり、つながりの輪を広げ、体験以上の成果を納めました。(ステッキ K.S.)



インスタントシニア体験コーナー

フェスティバル

れました。ファミリーボランティア体験、の店「なかま」の出張店などさまざまな約1500人の方々が来場されました。

ボランティアイラストコンクール

市内の小・中・高等学校の児童・生徒対象に、『「ボランちゃん」がボランティア活動をしている姿』をテーマのイラストを募集したところ、274点もの応募がありました。その中から、最優秀作品1点と優秀作品9点が選ばれ、ボランティアフェスティバルの中で表彰式が行われました。



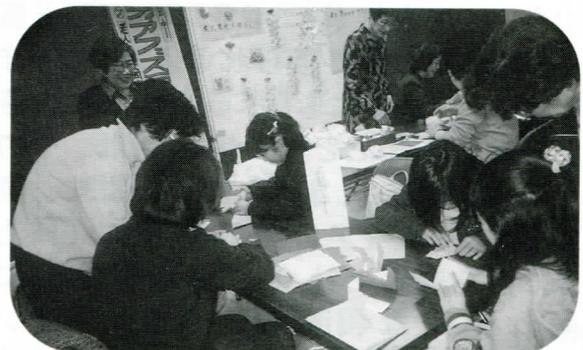
最優秀作品: 市立緑地小学校4年
新鍋 佑梨 さん

子ども遊びコーナー

子ども遊びコーナーでは、折り紙で作った小さい小さい金魚がぶらさがったモビールが揺れ、子どもたちが喜びそうな動物やトトロといったアニメの主人公、折鶴も普通ではなく変わった形のものなどがいっぱい飾られていました。

サイコロのような四角や三角の箱を折っている子ども達は、少し難しかったようで老人大学の人に手伝ってもらって完成し大喜びしていました。

見るだけでも楽しく、やってみるともともと楽しいコーナーでした。(そよかぜ N.I.)





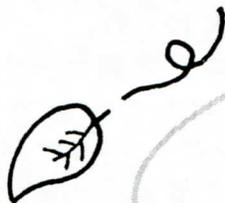
ボランティアの木



2001年 ボランティア国際年記念 として「メッセージ・カード」キャンペーンが全国で展開されました。ボランティアセンターでも多くの方々にボランティアに関するメッセージを書いていただき、「ボランティアの木」の一枚一枚の葉として掲示されました。いくつかご紹介します。



話(わ)を持って、
輪(わ)をつなげれば、
和(わ)が生まれる

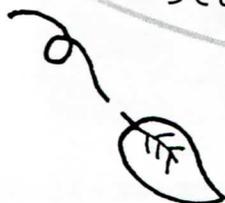


ボランティアを始めたい人に!!
自分のできることを勇気を出して
第一歩をふみだしましょう。
きっとすばらしい出会いがあります。
はじめは消極的なおじさんより

ボランティアをしてみたいけど

チョット迷っている方へ

人は一人では生きてゆけません。自分が、親が、子が、
いつも社会の中で生かされています。小さな事から
一つでも愛の心を誰かに受け取ってもらえたら
嬉しいですよ!!



すこしの心の
お手伝い。足のお手伝い。
外出へのお手伝い。

誰かのために何かで役立ちたい…
と多くの人達が望んでいると思います。
そんな人たちが小さなことでも力を寄せ
合って大きな力や存在になっていく…
その為にはどこかのグループに入るか、
仲間と立ち上げるかして充実した
日々につなげていきましょう。

ボランティア活動
を多くの人々のために…
そして、自分自身のためにも
できることから
やっていきたい。



あなたの小さな助けを
待っている人がたくさんいます。
少しの気持ちと時間がその人たちを
明るくします。
あなたの一言をまっています。



ボランティアはいま

「奇 特 な 変 わ り 者 が す る ボ ラ ン テ ィ ア」と呼ばれた活動が「いつでも、どこでも、誰でも気軽にボランティア」と調子のよい口調で語られるようになりました。マスコミにも「ボランティアは善行」だと美談とともに報道され、そのイメージが拡大されつつあります。国でもボランティアの語源の意味(時として自ら進んで社会の矛盾と闘う)に触れることなく、受け入れられやすい形でボランティア推進が国策とみまが

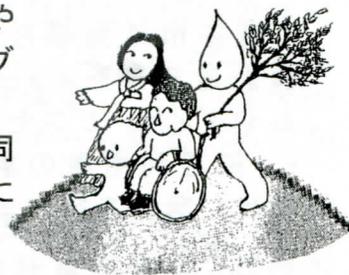
うばかりに進められています。このような流れの中で「行為」にだけ目を奪われていると、体制の中に取り込まれはしないかと危惧するのは私の思い過ごしでしょうか。今ボランティアは行為による喜び、生きがいに埋没することなく、遭遇する世の中の不条理、暗さに瞳をこらし問題意識をもって社会参加する姿勢が求められているように思われます。

(聴くの会 T.Y.)

ボランティアリーダートレーニングコース

11月30日から3月2日まで8回にわたり、活動と社会参加（地域や社会を変える行動）を推進するためにボランティアリーダートレーニングコースを開講しました。

この講座は、豊中市市民活動課、とよなか国際交流協会、豊中男女共同参画推進財団、豊中市社会福祉協議会のそれぞれで活動する市民が互いに生活者としてトータルな視点を深め課題を共有することが活動をより地域に還元していくことができるのではないかと考え、はじめて協働企画した3ヶ月間のトレーニングコースでした。約40名の参加者は毎回多くの学びと気づきの体験をしました。



最も特徴的であったのは、各活動分野を知り合う「フィールドトリップ」でした。福祉分野のボランティアは国際交流や環境などのボランティア体験をする中で共通点や思考の原点などについて目からうろこの体験が続きました。最終回の早瀬昇さん（大阪ボランティア協会）から市民活動の原点として市民と行政とのパートナーシップの考えかたについて興味深いお話をいただきました。これからの展開が大いに期待されます



熱心に話を聞く参加者



1分間で自己紹介

参加者の声

今まで、一つのグループだけの世界であったが、今回のコースで、多岐にわたるグループで多くの人が活躍していることを知った。特にフィールドトリップでは全く未知の分野を知ることができ、非常に意義深い体験であった。

細谷 正純（みちしるべ）

ボランティアに関して異なった分野の実体験を色々なことを学ばせていただきました。素晴らしい仲間と出会えました。しかし、色々な問題に触れ、関心を持ちましたが、自分の活動として何が出来るか、焦点を絞るといふ重たい課題も残りました。トレーニングの受入先の皆さんありがとうございました。

福本幹雄（Vネットとよなか）

講座を通じて感じたキーワード

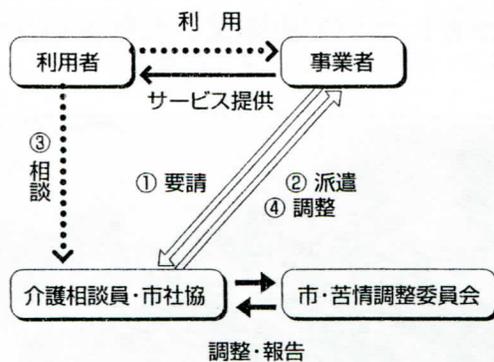
現場とネットワーク
 は一と&は一と
 百聞は一見にしかず
 思いは通じる
 人とのつながりが豊中を作る
 思いを形に
 相互交流
 自立だけでは困難
 どうあるべきか人と場
 市民活動は未来を作る
 実践あるのみ
 視野を広げること
 人が財産
 情報と体験
 自己改革と自己研鑽 など

介護相談員（介護サポーター）派遣事業がスタート！！

豊中市社会福祉協議会は、豊中市の委託を受けて平成13年12月より介護相談員派遣事業をスタートしました。この制度は、介護相談員を市内の特別養護老人ホームやサービスセンター等40カ所の介護保険施設に概ね月1回、二人1組で派遣し、施設利用者の素朴な疑問や不安等に応じ利用者と施設の橋渡し役となり解決に向けた活動を行います。また、地域において介護保険制度の利用に関するPR活動も行います。

介護相談員は、日頃地域で介護ボランティアなどを行っている24名に市社会福祉協議会が委嘱し、国の指定する養成研修を修了された皆さんです。

試行錯誤の中でスタートした制度ですが、3ヵ月で活動回数132回、相談件数は24件となっています。介護保険制度を豊かな内容に育てていくためにも大きな期待がかかります。



介護相談員の声

「癒しの部分でもお役に立てれば…」 上芝 国子

介護相談員として活動して3ヵ月が経ちました。サービスセンター、通所リハビリテーション、グループホーム、特別養護老人ホームと違うタイプの施設に二人1組で訪問しています。

特に特別養護老人ホームの場合は24時間で長期化している場合は大変な様子です。それぞれの人生を歩まれた方々を多くお世話する職員の大変さもよくわかり、カウンセラーの必要性もあると思います。私たちが訪問し、お話し相手になることで利用者の方々の癒しの部分の少しでもお役に立てればと思っています。徐々に勉強しよき相談員になれるよう努力したいものです。

「まずは信頼関係を築くこと…」 岡 安代

相談員としてスタートして3ヵ月が経ちました。利用者と事業所の橋渡し役なのでとにかく話を聞くことが基本ですが、利用者が多くて一人ひとりと十分に話を聴くことがまだできていない状態です。まずお互いの信頼関係を結ぶことが大切だと思っています。しかしまだ私の修行が足りないのかそこまでいきません。利用者が自分の持っている力で自宅で、夢とか目的をもって生活できる社会。そのためにはまず目の前で悩んでいる人たちに耳を傾け相談員として頑張っていこうと思います。

「ステッキ」では、3月18日、大阪モノレール「万博公園」駅近くにある「ディリパ」へ見学会に行ってきました。ここは「見て触れて体感できる」大阪ガスの新しいかたちのショールームです。今回の見学の目的は館内に作られたバリアフリー住宅の中で「うらしま太郎」という高齢者擬似体験セットを使って80歳のシニア体験をすることでした。私たちは、まず膝や肘を動きにくくするため利き足と利き手におもりやサポーターをつけ、その上に、左右のポケットに500グラムの重りを入れたベストを着用しました。次に手の感覚を鈍くし、握力を弱めるため両手に2枚重ねの手袋とサポーターをつけました。仕上げは耳栓と白内障体験めがねです。そんな重いハンデをつけた状態で私たちは、トイレや浴室などの体験をしました。

装具をつけたままでは洋式トイレとはいえ、太ももに手を置いて掛け声をかけての動作となりました。浴室では壁と浴槽のふち以外には触らないで浴槽に入りましたが、こちらはトイレ以上に難しく、みんな無口になって真剣でした。これらの困難を軽減するものとして電動昇降便座や腰かけステップ付き浴槽があり、こちらも体験してきました。

このショールームには、他にも「生涯自立住宅」設計のヒントや新築・リフォームの計画に役立つコーナー、色々な実験コーナーなどがあり、家族全員で楽しめる場所です。なお、「うらしま太郎」体験は無料ですが予約が必要です。

(ステッキ K.Y.)

市社協登録ボランティアグループ「ステッキ」
「ディリパ」見学

ボランティアレポーター訪問記

「大阪水上隣保館」見学
市社協登録ボランティアグループ「そよかぜ」

桜の花がほころびはじめた3月19日、「そよかぜ」では、京都の近くの大山崎にある「社会福祉法人大阪水上隣保館 遥学園」をお訪ねしました。遥学園は、児童養護施設としては日本最大の規模で定員202名で、現在の入園者は204名だそうです。1グループ約13名の男女混合の2歳からの18歳の子ども達が2人の保育士さんに見守られて生活しているそうです。少しでも家庭的な雰囲気ができるようにと、日々の生活や食事はこの13名のグループごとに自分達の部屋でするのだそうです。

また近頃は、身寄りのない子どもはほとんどなく、かわりに親から虐待を受け、精神的なサポートが必要な子どもが多くなっているということです。学園でのボランティアの役割も多く、花壇の整理、学習、習いごと、ホームハウスキーパー、散髪、子どもの遊び相手、行事等の活動を希望されています。お訪ねした当日も、毎年第2土曜日・日曜日に開催される「桜バザー」の品物を整理されているボランティアさんをおみかけしました。

(そよかぜ N.I.)



市社協登録ボランティアグループ
「つぼみ」
「大阪府知事表彰」を受賞



市社協登録ボランティアグループ「つぼみ」が「大阪府知事表彰」を受賞しました。

「つぼみ」は、高校生から20代後半の若い世代が中心のグループです。さまざまなイベントの企画や手伝い障害児・者の外出支援など積極的な活動を展開しています。

また、市立箕輪小学校・市立第二中学校も同じく「大阪府知事表彰」を受賞しました。

★使用済みプリペイドカード集めてます！！

「もういらぬから…」と捨ててしまおうと思っている使い終わったテレホンカードや交通機関のカードを、福祉のために役立ててみませんか。市社協では使用済みプリペイドカードを集めています。このカードは換金して市社協の事業費として活用させていただきます。

対象となるのは

テレホンカード、ラガールカードなど

【お問合せ】

豊中市社会福祉協議会 Tel. 6841-9393

ボランティア保険

ボランティア活動などに安心して取り組むための保険制度です。ご利用ください。

★ボランティア保険

ボランティア活動の参加者

・保険料（年間1人）

Bプラン 500円

Cプラン(天災担保) 700円

・補償期間

申込日の翌日から翌年3月31日まで

★非営利・有償活動団体保険

NPO法人、各種福祉活動グループ・団体(5名以上)

・保険料（年間1人）

Aプラン 4900円

Bプラン 6300円

・補償期間

申込日の翌々月1日から翌年3月31日まで

★ボランティア・市民活動行事保険

スポーツ活動や子ども会活動など各種市民活動を行う団体

・保険料（1人）

I型(宿泊なし)…30円～

* 掛け金は行事内容によって異なる

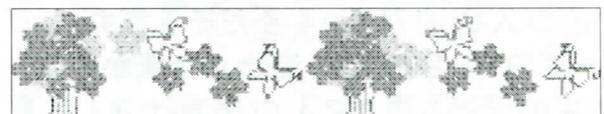
* 50名以上からご加入下さい

II型(宿泊あり)…1泊 248円～

* 行事開催日の7日前までにお申し込み下さい

【お申込み・お問合せ】

豊中市社会福祉協議会 Tel. 6841-9393



編集後記

太陽の日差しも日々強くなり新しい息吹を感じる季節だというのに、新聞テレビをにぎわす事件はほころびだらけの現実ばかりで淋しい限りです。「明るい未来」に近づくためにも今自分を見つめ直し広い視野を持って行動していく努力を続けたいと思います。(アクセス T. D.)